

中国国家図書館施設建設状況及び関連サービス計画

中国国家図書館 業務管理処

現在、中国国家図書館は、宮殿、庭園式の文津街古典籍館、左右対称で、高低入り混じった建物と庭園が結合した白石橋本館南区、平坦で簡素な様式の白石橋本館北区の 3 つのエリアから成っています。文津街古典籍館、白石橋本館南区、本館北区の総建築面積は 25 万平方メートルです。

一、文津街古典籍館

基本情況：西城区文津街 7 号に位置し、北海公園に接しています。敷地面積は 3 万平方メートル、建物の延べ面積は 3 万平方メートルです。1929 年 3 月に着工され、1931 年 6 月に竣工、開館しました。

設計様式：古典籍館の建物は、“古の宮殿を彷彿とさせ、北海の環境とともに称えられる”と言われ、松や柏が茂り、梁や棟に細工が施され、優雅かつ華麗で、国家重点文物保護単位に指定されています。古典籍館の本館（文津楼）の建築様式は、清朝の正式な宮殿様式を模したもので、緑の屋根瓦の寄棟造で、漢白玉でつくられた須弥座式とよばれる欄干をもち、斗拱¹（ときょう）や梁の角材には青緑の彩画が施され、柱は故宮の文淵閣を模した緑の漆塗りで、釣合がとれて端正でありながら優雅な色調となっています。

構造と配置：この建物は、設計図によると、もとは「工」の字型の構造でした。本館²は前面にある部分で、9 室、3 階建てで、1 階は半地下書庫、2 階と 3 階が閲覧室となっており、高さが 17.99 メートルあります。別館は 2 階建てで、1 階は半地下書庫、2 階が閲覧室になっています。本館と別館の間は平らな天井の渡り廊下で連結されています。本館の後方部分に書庫があり、5 層に分かれています。1950 年代に、書庫が手狭になったため、元の設計図にある長期計画に則って、建物の北側の建設予定地に「T」の字型の書庫及び南側の建物との結合部が建設されました。こうして、今日の「王」の字型の文津楼が形成されました。

¹建築物の柱上にあって軒を支える部分。

²原文では「主楼」すなわちメインビルディングのこと。施設全体を指す「本館南区」等とは別の、施設の一部分を指す。

業務：国家図書館古典籍館の主な所蔵資料は、一般の古典籍、地方志、家譜、文史資料³です。一般古典籍閲覧室、地方志家譜閲覧室、地方文献閲覧室等が設けられています。白石橋の本館南区の改修工事期間中は、貴重書のマイクロリールをここでも提供しています。

特徴的なサービス：国家図書館では、古典籍館の所蔵資料を利用し、展示や講座といった形で、伝統文化を公衆に伝えるという社会教育の職責を果たしています。今年、『藍靛金箔：中国絵画・桑皮紙絵画作品展』『殷契⁴重光：国家図書館所蔵甲骨文精品展』『書香人淡自莊嚴：周叔弢⁵自莊嚴堪貴重書展』等を開催し、評判は良好でした。また2001年より、古典籍館において「文津講壇」を開催していますが、現在では、古典籍館の利用者サービスの目玉のひとつになっています。

二、白石橋本館南区（別称国家図書館第一期）

基本情況：本館南区は海淀区中関村南大街33号の紫竹院公園の東側に位置し、敷地面積は7万平方メートル、建物の延べ面積は14万平方メートルです。1983年9月23日に着工し、1987年10月6日に開館式典が行われました。

設計様式：全体的に青色を基調としていますが、これには「水を用いて火を慎む」という意味が込められています。左右対称で、高低入り混じり、建物と庭園を結合させた配置が、施設に統一感を与えています。屋根は明清時代の様式を踏襲するのではなく、漢、魏の時代の質素で飾り気のない漢厥様式にアレンジを加え、現代のコンクリート建築に合うようにデザインされたものです。明るく、洗練された壁面仕上げに、古銅色の門や窓、褐色ガラスが配され、周囲の環境によくなじむとともに、近代的な図書館の素朴な気品を表現しています。

構造と配置：本館南区の建物は13の部分から構成されており、延べ面積は14万平方メートルで、書庫は高層、閲覧室は低層に設計されています。平らな低層の閲覧室が高い塔の形をした中央の書庫を取り囲むようなデザインになっています。二つの高い塔が本館⁶で、地上19層、地下3層の書庫となっており、収蔵能力は2000万冊あります。

業務：本館南区は国家図書館の所蔵資料の主要な収蔵地で、貴重書古典籍書庫、保存本⁷資料書庫、基蔵本⁸書庫などがあります。基蔵本書庫を利用して、本館南区では外国語文献、中国語と外国語の特別コレクションを主とした専門的なサービスを行っています。

維持改修：建設後二十数年が経過し、南区の建物の設備や配管の使用期限が過ぎ、現代

³ 『文史資料』とは1959年に周恩来の提唱により中華人民共和國政治協商会議のもとで編纂された逐次刊行物で、歴史上の人物や事象につき、関係者が保存していた史料と記憶によって綴った回顧録である。」

（渡辺千尋「清国における租界制度の形成と変容に関する史料調査：19世紀中葉から20世紀初頭を中心に」<http://hdl.handle.net/10083/49238>）

⁴ 契は殷の始祖。

⁵ 周叔弢（1891—1984）中国古典籍収集家。「自莊嚴堪」は仏教の経典の一節「佛莊嚴、自莊嚴」からとった周叔弢の書齋の名称。

⁶ 同注2

⁷ 永久に保存される資料で、原則として利用に供さない。（注：国立国会図書館関西館図書館協力課 編、中国国家図書館の現況。国立国会図書館関西館図書館協力課、2010.11. p.24）

⁸ 長期的に保存しかつ利用にも供する資料。「基蔵」とは「基本蔵書」の略。（注：同注7）

の施設管理の需要が満たせなくなりました。そのため、2011年5月に南区の改修工事を開始しました。将来発展していくという需要に基づき、南区の改修工事を契機として、元の建物の雰囲気を持するという前提で、外壁のリフォームを行い、施設の設備を全面的に改良し、新しいシステムや機器を導入しました。南区の改修工事は2013年末に終了し、2014年上半期に試行運用する予定です。

中国国家典籍博物館：本館南区の改修工事と同時に、南区の東側区域を開拓した1万平方メートル近くの空間に中国国家典籍博物館を建設しています。奥深くしまわれている貴重な版本の古典籍を密室の中から分類して取り出して展示し、公衆に中華文明、伝統文化について理解を深めてもらう趣旨です。典籍博物館は2014年に完成する予定で、完成すれば中国初の典籍博物館となります。

三、白石橋本館北区⁹（別称国家図書館第二期）

基本情況：本館北区は本館南区北側の予定地に、2004年12月28日に定礎し、2008年9月9日に利用者の受入を開始しました。総建築面積は約80,000平方メートルです。

設計様式：本館北区の建築スタイルを簡略に言えば、モダンです。平らに広がる態様と簡素なスタイル、くっきりした印象の見上げるような基部、階段や巨大な柱、水平方向に突き出した大屋根等が基本的要素です。¹⁰基部内の伝統的様式の図書館は、中華文明の深厚なる礎を表現し、外部の軽やかな大屋根は科学技術と文化発展の新たな流れであるデジタル図書館を表しています。この二者の間の透明な連結部分は今日の人間を意味しています。「過去、現在、未来」の設計思想を十分に表現しています。

構造と配置：北区は1棟の地上5層、地下3層の本館と西側の独立した地下2層の機械式車庫から構成されます。本館は東西に長さ約120メートル、基部の幅は90メートル、屋根の高さは約27メートルです。地上部は1、2層の基部部分と4、5層の鉄鋼/ガラス部分から成り、第3層は、ガラスのカーテンウォールが覆う連結部となっています。

業務：中国語文献と電子文献の提供を主とした一般閲覧サービスを提供しています。

本館の地下3層、地下2層は主に集密書庫と設備用スペースです。地下1層は東から西へ、デジタル資源貯蔵管理センター、集密書庫、ネットワーク管理センター、四庫全書展示区¹¹、四庫全書区¹²、中国語参考図書閲覧区、中国語新聞暫置書庫、中国語雑誌暫置書庫と設備用スペースに分かれています。

地上1層の北東コーナーは学术交流区であり、南東コーナーは利用者ホールです。東門入り口に相対して、四庫全書展示区、四庫全書開架区があります。アトリウムは地上1層

⁹ <http://current.ndl.go.jp/report/no12> を参照した。資料の名称などは、http://current.ndl.go.jp/files/report/no12/lis_rr_12_data.pdf も参照した。設備については <http://current.ndl.go.jp/e838> に短くまとめられている。

¹⁰ <http://www.toho-shoten.co.jp/beijing/bj200809.html> 外観の印象がコンパクトにまとめられている。

¹¹ <http://current.ndl.go.jp/node/17429> 「地下1階には、ガラス張りの保存書庫を設けて、四大貴重蔵書(5)のうちの1つである『文津閣四庫全書』の原本を保存する(図3.2)。普段は幕が下ろされていて、内部の様子を窺うことはできないが、記念式典の際には、幕を上げてガラス越しに一般に披露される。」

¹² <http://current.ndl.go.jp/node/17429> 「四庫全書関連の影印叢書(地下1階)が開架されている(図3.1)。」

から5層まであり、高さは約30メートル、建築面積は4,200平方メートル、参考図書区となっています。アトリウムの外環は1層から3層までは中国語図書区であり、近年出版の中国語図書と附属CDが開架提供されています。

4層の北側は中国語新聞閲覧室であり、南側は中国語雑誌閲覧室、東側はデジタル共有空間です。5層は事務スペースです。

2010年1層の北東コーナーを改築、国家図書館少年児童館を設立し、未成年のためのサービスを強化しました。

本館南区の補修改築により、本館北区は目下、総合レファレンスカウンター、利用者カード受付、目録検索コーナー、社会科学レファレンス、科学技術レファレンス/国家図書館科学技術文献最新情報調査センター、文献提供センター、企業情報サービスセンター、複写受付、中国語図書区、貴重図書区¹³、参考図書区、海外文献閲覧区¹⁴、日本出版物文庫閲覧区、中国語雑誌閲覧区、中国語新聞閲覧区、基蔵中国語図書閲覧区、保存本閲覧区、マイクロ文献閲覧区、中国語年鑑閲覧区、学位論文閲覧区、台湾・香港・マカオ文献閲覧区、デジタル共有空間等、22のサービスプラットフォームを収容しています。

中国国家デジタル図書館：

国家デジタル図書館プロジェクトは国家図書館北区プロジェクトと合併立案され、中国国家の「第10次五か年計画」期間の重点文化プロジェクトであり、国家図書館により組織構築されたものです。

国家デジタル図書館建立の目標は、次のとおりです。中国語デジタル資源を重点的に収集、構築、保存し、世界最大の中国語デジタル情報の保存ベースを建設すること。デジタル資源の収集、加工、保存、提供サービスの技術的サポートを行うプラットフォームを構築すること。先端の技術と伝達手段を利用し、国家の基幹ネットワークにより、全国と全世界に向けて高品質の中国語デジタル情報を主たるものとしたサービスを提供すること。世界最大の中国語デジタル情報サービスの基地を建設すること。国家図書館をサービスセンターとし、国内の各大図書館をサービス接点としたデジタル資源伝達およびサービス体系を構築し、その他の専門的、地域的デジタル図書館システムへサービスのサポートを提供すること。国家デジタル図書館プロジェクトのハードウェア、ソフトウェアを充分に利用し、全国文化情報資源共有プロジェクトの提供技術のサポートのプラットフォームとなること。

国家図書館二期および国家デジタル図書館の建立開館は、国家図書館の伝統的文献サービスをデジタル情報サービスと融合させ、検索、閲覧、レファレンス、収集と知的レジャー等のサービスを一体化しています。国内外の文献閲覧と検索サービス以外に、新技術と手段を利用したサービス提供の方法には、次のようなものがあります。全域無線LAN化。利用者はインターネット端末を持参、館内のどこからでもインターネットに接続可能であ

¹³ 原文「经典图书区」。 <http://current.ndl.go.jp/node/17429> の「貴重書閲覧室」「敦煌トルファン文献閲覧室」等を示していると思われる。

¹⁴ <http://current.ndl.go.jp/node/17429> の「外国語文献第一閲覧室」ほかを示していると思われる。

る。デジタル資源利用サービス。館内に 500 台を超える PC を設置、利用者は無料で電子情報資源を利用することができます。排架位置ナビゲーションサービスとは、RFID 技術により、館内の排架位置のナビゲーション、検索サービスを提供しています。マルチメディアタッチパネル閲覧サービスとは、利用者は館内いたる所にあるタッチパネル式閲覧器により、デジタル新聞・雑誌を閲覧し、特色ある館蔵資源を広く知ることができるサービスです。デジタルテレビおよびモバイルデジタル図書館サービスとは、ケーブルテレビネットワーク、インターネットテレビや携帯電話等のモバイル閲覧プラットフォームにより、利用者へ各種文献情報資源やオンライン講座資源を伝送するものです。

現在、国家図書館は次のような構成です。一期館は海外文献、国内外の特色あるコレクションを主としたリサーチサービスと典籍博物館を中心とした展覧展示サービスを提供しています。二期館は一般中国語文献の閲覧とデジタル資源サービスを主とした一般閲覧サービスを提供しています。古籍館は、一般古籍、貴重書を主とする文献サービスと伝統文化の宣伝広報サービスのモデルを提供しています。同時に、国家デジタル図書館に依拠し、サービスの深さと幅の拡大によって、社会知識の宣伝と情報サービスの中核となり、国家の情報基礎建設における重要な枢軸となり、中国が世界に向けて発揚する中華文化の重要基地となっています。